世界結晶年記念講演会「結晶の美しい世界と、私たちの未来」

大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 井上 豪

Tsuyoshi INOUE: Memorial Lectures of International Year of Crystallography (IYCr)
“Crystals: Beauty and our Future”

1. はじめに

平成 26 年 11 月 2 日 (日曜日) の午後 1 時、東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センターの伊藤謝恩ホールにおいて世界結晶年日本委員会主催の記念講演会「結晶の美しい世界と、私たちの未来」が開催された。例年、日本結晶学会年会は 2 日間の日程で開催されるが、今年は「世界結晶年 International Year of Crystallography 2014 (IYCr2014)」を実質的に担当する学会として 3 日間の開催となり、その中日に日本結晶学会主催の会員向けの記念シンポジウム (午前) と、世界結晶年日本委員会主催の一般向け記念講演会 (午後) を開催し、ご来賓をそのまま日本結晶学会年会の懇親会にご招待するという流れの中で開催された。特に、本記念講演会は 1 年間の IYCr2014 の活動を締めくくる最も重要な記念行事と位置付けられ、一般向けの広報にも力を入れた結果、500 名が収容可能な講演会場に延べ数では 400 名を超える来場者を数えて成功裏に終えることができた。

2. 記念講演会

第 1 部では、これまでの 100 年間の日本における結晶学の歴史を振り返った。司会役の日本委員会副委員長の栗原和枝教授が、ラウエやブラッグらのノーベル賞受賞の年に、彼らより遙かに複雑で困難な課題に、東京大学教

授の寺田寅彦や日本結晶学会初代会長の西川正治らが取組んでいたという事実を、このことが書かれている当日配布の資料 (理研ニュース) を片手に熱弁を振われ、講演会が開始された。このことは、日本委員会委員長の飯島澄男先生のご挨拶、日本学術会議会長の大西 隆会長や内閣府政策統括官の倉持隆雄様 (科学技術イノベーション担当) のご祝辞のあと、「寺田寅彦からの 100 年」と題した、同じ東京大学の雨宮慶幸講師からもご紹介をいただいた。

第 2 部では、「結晶が魅せる美しい世界」と題して 5 名の著名な先生方にご講演をいただいた。まずは、寺田寅彦教授の弟子の 1 人で、1936 年に世界初の人工結晶の作製に成功した北海道大学教授の中谷宇吉郎先生のご息女の 3 人 (中谷オルセン咲子講師、中谷英二子講師、中谷三代子講師；それぞれ地質学者、芸術家、ピアニストとして世界的にも著名) が揃ってお見えになられ、ご講演をいただいた。名城大学の飯島澄男講師によるカーボンナノチューブの発見とその応用に関するお話や、東京理科大学の中井泉講師による 300 年前の芸術品を復活させるお話は、タイトルのとおり、一般参加の方々のみならず結晶学会会員をも魅了した。

続く第 3 部「結晶からうまれる私たちの未来」では、佐藤勝昭講師、佐川真人講師、井上晴夫講師、後藤俊男講師に「結晶」が拓く最先端の科学技術についてご紹介いただいた。折しも赤坂・天野・中村らの 3 氏が青色 LED を

飯島澄男先生 (世界結晶年日本委員会委員長)

講演会場の様子（中谷オルセン咲子先生の講演時）

発する人工結晶の発明でノーベル物理学賞を受賞した直後とあって参加者らの関心も高く、講師の先生からいただいた「半導体」「永久磁石」「人工光合成」「新薬」の開発に繋がる科学技術の進歩と未来への提言は、研究者にとっても大きな刺激となった。

3. 企画運営

当日の運営に奔走していたこともあり、すべてのご講演を隅から隅まで拝聴できたわけではないが、最後に元国際結晶学連合会長の大橋裕二先生が閉会のご挨拶の中で述べられたとおり、次の100年の科学技術の発展に期待し、日本や世界の人々の将来の暮らしに明るい希望を抱かせる良い記念本講演会になったと確信している。

大変にお忙しい中、日程を調整していただいてお越しいただいた講師の先生方には改めて深く感謝申し上げます。また、本講演会途中は1時間遅れで進行するなど大変に心配する場面もあったが、第2部と第3部の司会を務めていただいた理化学研究所理事の川合眞紀先生、東京理科大学教授の黒田玲子先生らの機転で大幅に修正していただいた。大変失礼ながら時間の短縮に応じて下さった講師の先生方にもこの場をお借りしてお詫び申上げたい。

なお、本記念講演会を開催するにあたり、文部科学省、ユネスコ国内委員会、東京大学から協賛をいただいた。また、IYCr2014の趣旨の1つである次世代の科学技術を担う「若手の育成」のため、本学会をはじめ37を数える賛同学協会の窓口を通じて若手会員や、全国200を超えるスー

パーサイエンス高校 (SSH) にもポスターやリーフレットを送付して広報をお願いした。特にパンフレット「結晶」は全部で2万部を印刷して広報に務めたが、これら広報に必要な費用は、理化学研究所、(株)リガク、日本電子、浜松ホトニクス、高エネルギー加速器研究機構から多額の寄付を頂戴した。一方、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞、公明新聞の各新聞社からは、IYCr2014の趣旨に賛同し、積極的に広報にご協力をいただくとともに、本記念講演会の運営に必要な資金の一部は日本製薬工業連合会を通じ製薬企業77社からも寄付も頂戴した。関係各位にはこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

4. おわりに

今回、世界結晶年日本委員会の下に発足した実行委員会の庶務幹事として、1年間を通じてIYCr2014の種々の活動に参加させていただいた。100年に1回の記念すべきタイミングに実行委員会のメンバーとして、委員長の高田昌樹先生をはじめ、たくさんの先生方と想いや時間を共有できたことに改めて感謝申し上げますとともに、本記念講演会の開催にあたりいつも温かい声援を送って励ましていただいた関係各位に改めて深く御礼を申し上げます。最後に、研究室の秘書の竹市未帆さんには、IYCr2014の事務局として、この夏以降のほとんどの休日を返上して対応していただいた。IYCr2014の委員会が発足した準備の段階からずっと陰で支えていただいたことに改めて深く感謝の意を表したい。